

PDA会員

PDAでは、パラメンタリーディベートを通じ、英語での発信力、論理的思考力、幅広い知識、プレゼンテーション力、コミュニケーション力など複数のスキルを育み、グローバル社会で貢献できる人財の育成に寄与することを目的といたします。PDAの活動にご共感いただけました際には、PDA会員として活動のご支援ご協力をいただけましたら幸いです。

▶ 個人会員

対象：個人
特典：情報提供
・PDAメルマガ(Motion of the month)の配信
・個人向けイベントの会員料金の適用、優先枠の確保

▶ 学校会員

対象：小・中・高等学校（大学以上は、個人単位で個人会員としてお申込みください）
特典：情報提供
・学校会員対象イベントの会員料金の適用、優先枠の確保
・教材提供(モーション、単語シート等)
・学校会員同士の遠隔ディベート

▶ 法人会員

対象：一般企業及び類似団体
特典：情報提供
・法人向けイベント(法人向け研修等)の会員料金の適用

PDA学校会員入会実績(抜粋)

栃木県立宇都宮女子高等学校英会話部	神奈川県立柏陽高等学校	岡山高等学校
栃木県立佐野高等学校	湘南白百合学園中学・高等学校	ノートルダム清心学園 清心女子高等学校
栃木県立宇都宮東高等学校	栄光学園中学校・高等学校	島根県立松江北高等学校
茨城県立竹園高等学校	浅野学園中学高等学校	山口県立大津緑洋高等学校
清真学園高等学校・中学校	翔凛高等学校	福岡県立城南高等学校
埼玉県立浦和高等学校	群馬県立前橋高等学校	大分県立中津南高等学校
渋谷教育学園渋谷中学高等学校	長野県松本深志高等学校	宮崎県立宮崎北高等学校
筑波大学附属駒場高校	長野県松本県ヶ丘高等学校	九州学院
富士見中学高等学校	上田染谷丘高等学校	熊本県立八代高等学校
神奈川県立湘南高等学校	京都府立嵯峨野高等学校	他
神奈川県立厚木高等学校	大阪教育大学附属高等学校平野校舎	



一般社団法人
パラメンタリーディベート人財育成協会
Parliamentary Debate Personnel Development Association

アドバイザー

産学のグローバル人財より、応援頂いています。



志賀 俊之

株式会社産業革新機構
代表取締役会長
日産自動車株式会社
副会長
文部科学省
中央教育審議会委員



宮本 久也

全国高等学校校長協会
会長
東京都立西高等学校
校長
文部科学省
中央教育審議会
初等中等教育分科会委員



鈴木 茂男

元日本興業銀行
国際金融アドバイザー
一般社団法人日本英語
交流連盟 常務理事



村上 憲郎

前 Google 日本法人名誉会長
元 Google 米国本社副社長
兼 Google 日本法人代表取締役社長
株式会社エナリス代表取締役 会長
村上憲郎事務所 代表

ごあいさつ

昨今、グローバル社会で活躍できる人材の育成が求められています。社会問題に対する関心や知識、多角的な考え方、コミュニケーション力など世界に貢献できる国際的な素養を身につけ、国際社会でのアクティブな活動を促すことは重要と言えます。パラメンタリーディベートでは、英語での発信力はもとより、論理的思考力、幅広い知識・考え方、プレゼンテーション力、コミュニケーション力など複数のスキルを効果的に鍛えることができます。グローバル社会に必要なスキルを鍛える一手法として、パラメンタリーディベートをより一層推進させるため、この度、一般社団法人 パラメンタリーディベート人財育成協会(Parliamentary Debate Personnel Development Association, PDA)を設立いたしました。

これまで、教育現場や社会におけるパラメンタリーディベートの導入・普及活動に取り組んでまいりました。今後、PDAを通し、より多くの方々にパラメンタリーディベートの魅力をお伝えしていきたいと思っております。PDAの活動がグローバル人材育成の一助となりますよう努める所存です。

今後ともご指導、ご支援のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。



一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会(PDA) 代表理事

中川 智浩 (なかがわ ちひろ)

[ディベート略歴]

- 2001年 準備型英語ディベート(米国式)を始める。
- 2002年 パラメンタリーディベートを始める。国内外の大会に多数出場、ジャッジ、運営を務める。(WUJDC, ESUJ, JPDU, HEnDA等)
- 2005年 東京大学英語ディベート部を設立、社会人練習会を主宰する。
- 2005年 大学生英語ディベート世界大会 ESL準決勝進出(日本最高記録)
- 2006年 東京大学英語部 部長

19.344 mm

パラメンタリーディベート(即興型英語ディベート)とは

パラメンタリーディベートとは、一つの論題に対し、肯定と否定チームに分かれ、各々のチームが第三者を説得させるパブリックスピーチ型のディベートです。論題は、社会、政治、倫理、環境、国際問題など多岐にわたります。論題が発表されてから、15～30分程度の短い準備時間の後、ディベートを開始します。ディベートをする者は、肯定か否定チームのいずれに属するかを自ら選ぶことはできず、自身の意見とは異なる観点からの主張も考えなければならないことがあります。世界では、教育現場にてパラメンタリーディベートが広く導入されています。ブレア元首相など政治家をはじめ、パラメンタリーディベートの経験を活かし、多くの人々がグローバルに活躍されています。



〈身に付く力〉

パラメンタリーディベートで身に付く主要な力は、以下の5つです。



4技能+内容を鍛える効果的なアクティブラーニングです。

※日本の学校の通常授業にパラメンタリーディベートを導入できる形式にアレンジしたものを、なじみやすい・理解しやすい表現として、即興型英語ディベートと呼んでいます。

活動

学校教育における即興型英語ディベートの推進

- ▶ 学校授業におけるサポート、研修
- ▶ 地域交流大会
- ▶ 合宿(生徒・教員)
- ▶ 全国大会(高校、中学)
- ▶ 世界交流大会
- ▶ 教員ワークショップ



文部科学省事業

▶ 教員研修

平成25年度～平成27年度*

高等学校における「多様な学習成果の評価手法に関する調査研究」

「即興型英語ディベートを活用した統合型ルーブリック評価の研究」

平成28年度

総合的な教師向上のための調査研究事業

「即興型英語ディベートを用いた教員の研修プログラムの開発・実施」

連携: 千葉県教育委員会、大阪府教育委員会、沖縄県教育委員会

平成29年度

教員の養成・採用・研修の一体的改革推進事業

「即興型英語ディベートの指導者育成に関する研修開発と評価制度構築」

連携: 神奈川県教育委員会ほか

※法人設立前含む

▶ PDA認定教育ジャッジ

パラメンタリーディベートを社会に広く効果的に推進するため、PDAではジャッジの認定制度を導入します。特に、中学・高等学校を中心とした授業におけるパラメンタリーディベートの導入をサポートしていきます。PDA認定教育ジャッジとは、主に中学・高等学校の授業で使用されるパラメンタリーディベート(即興型英語ディベート)のフォーマットの下、教育的な指導ができる認定ジャッジのことで、PDAは、授業や公式大会においてジャッジが求められる際、認定を受けた教育ジャッジを推薦します。



試験内容

- (1) 筆記試験
- (2) ディベート実技
- (3) ジャッジ実技

※文部科学省事業をはじめ、教育委員会および学校等での研修では、**授業導入可能な標準化された形式の**即興型英語ディベートを取り扱っています。(参考)授業でできる即興型英語ディベート 中川智浩(2017)